



本メールマガジン「教育ながの」に関するアンケートを実施中です。

記名は必要ありません。以下 URL から御協力お願いいたします↓↓↓

<http://www.shinsei.elg-front.jp/nagano/navi/procInfo.do?govCode=20000&procCode=100523>

## ★今月号のラインナップ★

### 1. ひろば

○「地域の力」に生かされる

南信教育事務所長 大屋 誠

○「ユニークな先輩の話」

松本深志高等学校長 田中正吉

### 2. 特集

家庭学習の充実を図るための「家庭学習シンポジウム」を行いました

教学指導課

### 3. 現場レポート

ICT活用していますか？

～教員のICT活用能力を伸ばすために～【総合教育センター】

### 4. ご存知ですか

「冬の信州省エネ大作戦・2014」実施中！！

### 5. イベント情報・お知らせ

長野県、教育委員会事務局内各課からのお知らせ、  
生涯学習推進センター、県立図書館等のイベント情報等

### 6. あとがき

私は、地元の木曾・上松町で「上若連」（かみわかれん）というお祭りの団体に県職員に奉職以来属している。上松町は何回か大火に見舞われてきたので、古文書も少なく、いつ頃に団体が出来たのかははっきりしたことは分からない。奉納する獅子狂言は三河獅子の流れを受け継ぎ、下伊那地方を通じて伝えられたらしい。



※平成 26 年 9 月八幡宮において

九月の諏訪神社例祭の前夜祭で「芸習い」（げいざらい）と呼ばれるものがある。これは地歌舞伎を奉納するもので、女形は獅子が演じる。赤い強面の獅子が若い女性の振袖を纏って妖艶な仕草で女を演じるのを地元の方は毎年楽しみにしている。獅子が出ない歌舞伎そのものの演目（写真参照）もあり、伝えられて来ている。

実は、上若連にも時代の波が押し寄せ、若い人が入らない、というよりも「居ない」と言った方が正しい。しかし、昨年一人の若者が入った。金髪に両耳にはイヤリング、何とも伝統的なお祭りに相応しくない「いでたち」のいかにも現代の若者。しかし、私は次のことを人づてに聞き、思うところがあった。その若者の祖母が「今まで私に挨拶もしなかった孫が上若連に入ってから、きちんと挨拶ができ、積極的に私にも声を掛けてくれるようになった」と泣きながら話し、喜んでくれたとのこと。上若連には先輩を敬い、地域の方々へのお礼など礼儀作法を一から教える新人教育の伝統がある。地域の力というものを垣間見る思いがする話であった。

私は、これからも上若連を通じて地域と積極的に関わっていきたいと考えている。お祭りの酒もほどほどにしながら。

## 「ユニークな先輩の話」

松本深志高等学校長 田中正吉

今年度の本校文化祭講演会に、OBである近畿大学の熊井英水先生においでいただきました。この講演会は、講師選びや依頼、当日の進行等すべて生徒の手で行っています。

昨年の大学入試の志願者数がトップになったのは近畿大学で、ニュースの見出しが「マグロ効果に他の大学沈む」となっており、熊井先生は、そのクロマグロの完全養殖を手掛けた方です。

先生は、高校2年の夏休みに生物クラブで三重県の鳥羽湾へフィールドワークに行き、初めて海の生物と出会って、こんな世界があったのかと胸躍らせました。そして、広島大学へ進学し、近畿大学水産研究所の所員になりました。

クロマグロの養殖研究は1970年に始められましたが、マグロは皮膚が弱く、人が触ると死んでしまったり、酸素が多量に必要で常に新鮮な海水を泳ぎ続けなければならないため、大きな丸いいけすを作るなど、まさに「飼うことは学ぶこと」でした。

いけすに飼うのに4年、産卵するまでさらに5年など長い年月をかけ、2002年ついに卵から育てたクロマグロが卵を産み、人の手でクロマグロの一生を一巡、世界初の完全養殖に成功したのです。

2013年12月、「近大マグロ」が食べられる養殖魚専門の料理店「近畿大学水産研究所」が、大阪の1号店に続いて東京銀座に開業し、一気に有名になりました。熊井先生は高校生のときの感動をばねにして、大きな夢を実現したわけです。

今年、青色LEDの開発によりノーベル物理学賞を受賞した赤崎勇先生は、「流行のことでなく、自分のやりたいことをやるのがいい」とおっしゃっていました。目先のことだけに惑わされず、それぞれの道において常によりよいもの、より深いものを追究していく姿こそ、私たちの希望のように思います。



子どもたちの学力向上を図るため、今年度、「新たな家庭学習モデル創出事業」としてモデル校2校（安曇野市立堀金中学校、辰野町立辰野中学校）を指定し、家庭学習モデルの構築に取り組んでいます。その一環として、モデル校の実践をもとに、どの小中学校でも取り組める家庭学習のあり方を協議する「家庭学習シンポジウム」を、11月14日（金）に辰野町立辰野中学校において開催しました。

県内の小中学校の先生方、市町村教育委員会の皆さん、会場校である辰野中学校の地域ボランティアの皆さん等、約100名が参加しました。



#### ○自由参観「地域ボランティアが行う学習プリントの見とどけ」

まず、辰野中学校で毎日昼休みに行われている地域ボランティアの方々が行う学習プリントの見とどけの場面に参観しました。数学のプリントを手にした生徒たちが、次々に教室に入って来て、ボランティアの皆さんに取組を見てもらっています。

取組の様子について声をかけてもらい、嬉しそうな表情をする生徒の姿が印象的でした。



#### ○シンポジウム

モデル校2校の教頭、小学校の校長、信州大学の助教、南信教育事務所生涯学習課の指導主事をパネラーとして迎え、様々な立場から家庭学習の充実に関わって議論しました。モデル校の実践から、家庭学習の内容を確実に点検していくこと、作業的な学習から生徒が目的意識をもてる家庭学習に変えていくこと、小中学校間、また保護者や地域の方々と連携していくことの大切さ等が話題となりました。フロアの地域ボランティアの方からは、「家庭学習にかかわることで、家庭で学習についての話題が増え、子どもとの距離が近くなった」などの発言をいただきました。



#### ○分科会

シンポジウムの後、以下の分科会に分かれて情報交換しました。

- 第1分科会 堀金中学校の取組「生徒の目的意識を高める家庭学習」
- 第2分科会 辰野中学校の取組「家庭学習の見とどけ、地域や保護者との連携」
- 第3分科会 小学校の取組「県内外の小学校の取組の情報交換」
- 第4分科会 市町村教育委員会の取組「県内外の市町村教育委員会の取組の情報交換」

#### ○おわりに

参加者の中からは、「このような研修会は、情報を得られると共に考える機会となった」、「先生方との意見交換は、いい刺激になった」等の感想を寄せていただきました。

家庭学習を充実する機運が、県内の小中学校で高まるのはもちろんのこと、家庭や地域にも広がり、子どもたちの学習意欲や学力の向上につながることを願っています。

#### ◆お問い合わせ◆

長野県教育委員会教学指導課義務教育指導係  
 電話：026-235-7434 FAX：026-235-7495  
 E-mail：[kyogaku@pref.nagano.lg.jp](mailto:kyogaku@pref.nagano.lg.jp)

目次に  
戻る

## ICT活用していますか？

### ～教員のICT活用能力を伸ばすために～【総合教育センター】



出典：文部科学省ホームページ（<http://www.mext.go.jp>）

文部科学省が9月に発表した『平成25年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査』結果（\*表1参照）によると、本県の教員、特に小学校と高等学校の教員のICT活用指導力は、各調査項目で全国平均を大きく下回り、全国順位が軒並み40位台と大変深刻な状況にあります。

今、私たちの住む社会は、あらゆる分野で様々なICTを駆使することでより快適で効率的なものになっています。現代の子どもたちは、生まれた時からICTに囲まれて育っていると言っても過言ではありません。抵抗感を持たずに子どもたち以上にICTを使いこなせる大人は多くないと思います。

特に教育現場では今でもICTに関する根強い抵抗感があるのではないのでしょうか。

「教育は人と人との関わりの中で行われるべきだ。機械に頼ると人間同士の触れ合いが希薄になる。」このような考えをお持ちの方も多いかと思います。

一方で、ICT機器の安易な使用により、機械を使うことが目的となってしまっている事例もあるようです。ICTを導入するだけで子どもたちの学力が伸びるわけではありません。指導する先生方が道具としていかに上手く活用できるかが重要であり、本県では今、この「活用能力」が求められています。

このような状況の中、本県教員の研修機関である県総合教育センター（塩尻市）では、本年度の教員研修全271講座の内、およそ2割にあたる58講座をICT関連研修として実施しており、教員のICT活用能力の底上げを図っています。

今回は、実際に開催された研修講座『理科ねっとわーく入門 ～使いこなそうタブレット端末～』の様も含めて、センターのICT関連研修の取組状況について取材してきましたので報告します。

#### ●研修講座「理科ねっとわーく入門」について

##### ➤ 「理科ねっとわーく」とは

独立行政法人 科学技術振興機構が提供する理科教育用デジタル教材を集めたWebサイトです。子どもたちの興味や関心を引くコンテンツ（情報）が自由に利用できるため、授業でうまく活用することで子どもたちの理解も深まりそうです。

URL：<http://www.rikanet.jst.go.jp/>

【表1】 文部科学省：H25 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果 「教員のICT活用指導力」から

		全国平均	長野県	順位
教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	小学校	81.9	78.5	40
	中学校	78.6	81.0	18
	高等学校	81.9	74.4	44
授業中にICTを活用して指導する能力	小学校	72.3	65.1	43
	中学校	65.2	67.5	19
	高等学校	68.6	54.5	45
児童のICT活用を指導する能力	小学校	68.0	61.2	42
	中学校	58.9	62.7	15
	高等学校	65.9	55.4	41
情報モラルなどを指導する能力	小学校	79.6	71.4	46
	中学校	72.8	72.3	25
	高等学校	76.5	65.1	46
校務にICTを活用する能力	小学校	77.3	74.4	34
	中学校	75.0	77.2	19
	高等学校	80.3	73.0	43
上記各項目に関する研修の受講割合	小学校	38.5	46.6	10
	中学校	27.9	21.1	30
	高等学校	18.8	6.3	44



➤ 参加者

県内の小学校と特別支援学校の先生を対象に定員 12名の募集に対し、定員を超える希望があり小学校から理科専科の先生を中心に18名、特別支援学校から5名の計23名が参加されていました。

普段から「理科ねっとわーく」を授業で活用されている方もいれば、情報機器はほとんど扱えないといった方まで幅広く参加していましたが、どなたも目を輝かせながら「これは授業に使えるぞ」、「これは解りやすいな」といった調子で取り組んでいる姿が印象的でした。



➤ 講師

「理科ねっとわーく」を提供している科学技術振興機構 理数学習推進部から教員支援グループの3名が講師としてお見えになっていました。機構に出向されている現職教員、教員OB、技術者といった顔ぶれで、今年度は要望があれば全国各地で講義を行っているそうです。

➤ 研修内容

「理科ねっとわーく」の教材や素材を活用してタブレットPCを用いた授業づくりを体験することで授業での活用を図ることを研修の狙いとしていることから、タブレットPCを利用して「理科ねっとわーく」の教材・素材を確認することから始まりました。その後、それらの情報をタブレットPCで活用して授業プランをつくり、最後に作成したプランの発表が行われました。実習中心の講座で経験豊富な講師によるサポートのもと、有意義な研修が行われていると感じました。



研修で使用したPC  
タブレットにもノートにもなる  
2in1のハイブリッドタイプです

●総合教育センターのICT関連研修について

センターでは、県内の公立学校から派遣された32名の研修担当主事が教員研修の企画・実施に携わっているそうです。本県の教員のICT活用指導力は、残念ながら全国的にみて下位に位置している状況ですが、各学校で機器整備が進み、研修を通じて活用の有意性が理解されれば向上するとの分析もあり、意欲的に研修機会の提供に努めているようです。今年度の年間研修講座案内から、受講者が実際にICTに触れられる研修にマークをつけるようにして希望者がわかりやすいような工夫もしています。

➤ 研修の目的・狙い

基本的な方向性として、従来までの「一斉指導による学び」に加え、「個別学習」や「協働的な学び」の推進に対応できるように企画しており、ICT教育の裾野を広げるために身近な機器を利用した研修講座を充実させているそうです。一方で、最先端の機器による高度な活用法を内容とした研修も提供されていますので、対象者のレベルに応じて幅広く企画されているようです。

今までICTが活用されていなかった場面（活動）で、ICTを利用すれば同等以上の学習効果が得られる可能性があるということを知ってもらうことを共通目的と考えているとのことでした。

### ➤ 参加者の反応

勤務校にICT機器が整備されている方は、すぐに活用できることもあり、大変意欲的に取り組んでいるそうです。環境が整っていない方にもデジカメ・ビデオカメラなど身近な機器を用いたICT活用例が紹介されていることから、「できることから始められそうだ」といった声が多いそうです。

### ➤ センターの所有機器

今年の1月に導入したばかりのタブレットPC・電子黒板をはじめ、ノートPC・プロジェクター・実物投影機などの機器を1講座20名程度の参加者が同時に利用できるように数を揃えている他、ICT活用教育支援ソフト「SKYMENU」も導入しているため、授業においてより具体的に活用する方法も体験できます。

### ➤ 今後の方向性

文部科学省の定める「教育の情報化に関する手引」、「教育の情報化ビジョン」及び第二次長野県教育振興基本計画に則り、「教員のICTの活用」、「児童生徒によるICTの活用」、「校務の情報化」に関する研修講座の更なる充実を図っていきたくと意欲的なお答えをいただきました。

学校に対する機器整備が徐々に進んでいることもあり、単なる機器の操作研修から教科ごとの授業での具体的な活用方法へ内容を深化させていく必要があると考えているようで、今後の取り組みに益々期待したいと思います。

### ●今回の取材を通して・・・

ICT教育というと兎角、タブレットPCや電子黒板など機器整備に目が向いてしまい、お金がかかることだから進まないのは仕方ないことだと諦めに近い気持ちもありましたが、必ずしも最先端の機器を利用しなければICT教育に取り組みないわけではないことに気づかされ、私自身も目から鱗が落ちる思いでした。

身近な機器の効果的な活用法に気づいていない、もっと厳しい言い方をすれば、今までの授業スタイルで間に合ってきたのだから活用する気もないといった方もいる中で、教員のICT活用能力を底上げするには、まず、あるものを効果的に活用するだけでも質の高い授業ができるということに気付いてもらうことが大事であり、そのために必要なヒントを提供していくことが総合教育センターの重要な役割だと熱っぽく語る姿に頼もしさを感じました。

### あとがき

いきなり高嶺の花の高級車を乗りこなそうとするのではなく、身近な大衆車から始めようという気持ちが大事なようです。ICTに抵抗感がある方は、及び腰にならずに身近な機器を授業に取り入れてみることから始めてみませんか？きっと培ってきた授業力を一層効果的に発揮できる大きな武器になるものと思います。是非、総合教育センターの研修講座をご活用ください！

(文責：教育総務課企画係 浦澤 仁)

目次に  
戻る

## 「冬の信州省エネ大作戦・2014」実施中！！

夏に引き続き、長野県では、県民生活や経済活動に支障を及ぼさない無理のない範囲で、節電・省エネルギーに向けた県民運動を展開しています。

特に、ピーク時間帯における最大電力の抑制を中心に、未来志向型のライフスタイル、ビジネススタイルへの転換につながる、前向きな節電・省エネ対策を講じ、これまでに進んできている節電構造の更なる定着を図ります。

教育関係者の皆さんにおかれましても、積極的なご協力をお願いします。

### ◇節電・省エネ目標◇

最大電力について平成22年比▲5%（▲約15万kW分）

### ◇取組の期間◇

12月1日（月）～3月31日（火）

※特に電力需要のピークとなる、平日の朝9時～11時及び夕方・夜間の17時～19時の節電・省エネにご協力ください。

☆「冬の信州省エネ大作戦・2014」の詳細や、ポスター・チラシ等のダウンロードについては、以下URLをご覧ください。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/ontai/kurashi/ondanka/setsuden/shoene/index.html#daisakusen>

☆「大作戦」には、「学校等における節電・省エネ教育の推進」が盛り込まれています。

○節電チラシやポスターを活用して節電・省エネ教育を実施。

○小中学校で、校内の蛍光灯の「スイッチ切る係」を設けるなど、節電・省エネルギーの取組を働きかける。

○市町村教育委員会やPTAなどを通じて節電・省エネルギーの取組を周知。

### 学校関係者の皆さんにおいては特に以下の3点の取組をお願いします。

- ・節電チラシ（節電・省エネアクションメニュー）などを活用して、節電・省エネに関する児童生徒の実践や意識高揚などを図っていただくとともに、児童生徒等を通じて、家庭に普及していくような取組。
- ・校長会を通じても依頼しますが、公立の小中学校における、「スイッチ切る係」を設置していただく取組。
- ・教職員自らが率先して行う節電・省エネの取組。

### ☆学校における節電省エネ対策の参考資料

（文部科学省：学校施設における省エネルギー対策について（教職員向け））

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shisetu/green/080501-1.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/green/080501-1.htm)



～無理のない範囲での、  
節電・省エネにご協力ください～



# イベント情報・お知らせ

## ★「“つながろう木曽” 応援運動」にご協力をお願いします★

御嶽山噴火災害により、地域経済に大きな影響が生じている木曽地域を、個人、企業、団体、市町村など県民の皆さまが、「自分でできること」で応援する運動を開始します。

より多くの皆さまが、この運動にご賛同いただき、「木曽を訪問する」「木曽で会議を実施する」「木曽に宿泊する」「木曽の物産を購入する」「木曽の情報を発信する」などにより、木曽地域への応援にご協力くださいますようお願いいたします。

▼長野県関連ホームページ URL

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kankoshin/kiso-oen.html>

## ★HAKUBA VALLEY へおいでください！！★

先週末以来の降雪により、長野県内スキー場は良好なコンディションで次々とオープンしています。HAKUBA VALLEY（白馬村、小谷村、大町市）のスキー場も元気に、安全に営業をスタートしています！

▼長野県関連ホームページ URL

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kankoshin/okoshinomasama.html>

## ★「長野県いじめ防止に関する総合対策推進条例（仮称）骨子（案）」への皆さまのご意見を募集中です★

募集期間：平成 26 年 11 月 21 日（金曜日）～12 月 22 日（月曜日）

いじめは、児童生徒の心身の健全な発達や人格の形成に重大な影響を及ぼすのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる事案も発生するなど、深刻な問題です。

この度、「長野県いじめ防止に関する総合対策推進条例（仮称）骨子（案）」がまとまりましたので、ここに公表し、その内容について広く県民の皆様から意見を募集します。

## ★武道振興施設のあり方に関する提案（案）への皆さまのご意見を募集中です★

募集期間：平成 26 年 12 月 5 日（金曜日）～平成 27 年 1 月 4 日（日曜日）

長野県教育委員会では、外部の有識者による「武道振興施設のあり方検討会」（以下、「検討会」といいます。）を設置し、長野県における武道振興施設のあり方について検討してきました。

このたび、検討会において「武道振興施設のあり方に関する提案（案）」がまとめられましたので、その内容について広く県民の皆様からご意見を募集します。

## ★スポーツ課からのお知らせ★

### ◆メールマガジン「部活動NAGANO」

本県の運動部活動を応援するメールマガジン「部活動NAGANO」を平成26年6月26日に創刊しました。以下のHPで登録方法をご案内しておりますので、積極的に登録をお願いします。

第1号（6月26日配信）

「今こそ見直そう！運動部活動のコーチング観」

第2号（9月4日配信）

「北信越中学校総合競技大会総括」

及び 「美味しく食べて疲れ知らず！元気でたくましい信州ジュニア・アスリート」

第3号（近日配信予定）

【長野県教育委員会 スポーツ情報 WEBページ】

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/sport/index.html>

### ◆第35回全国中学校スケート大会

日時 平成27年1月31日（土）～2月3日（火）

会場 スピードスケート：長野市オリンピック記念アリーナ（エムウェーブ）

フィギュアスケート：長野市若里多目的スポーツアリーナ（ビッグハット）

全国の中学生スケーターの聖地「長野」で今年も熱い戦いが繰り広げられます。

今年度のスローガンは、「長野に刻む ひとつの歴史 大きく羽ばたけ 未来へ向かって」です。

一緒に応援しましょう！！

【第35回全国中学校スケート大会 WEBページ】

<http://homepage3.nifty.com/skating-nagano/>

#### ◆お問い合わせ◆

長野県教育委員会スポーツ課

電話：026-235-7449 FAX：026-235-7476

E-mail：[sports-ka@pref.nagano.lg.jp](mailto:sports-ka@pref.nagano.lg.jp)

[目次に  
戻る](#)

## ★長野県生涯学習推進センター研修講座のご案内★

1月から2月までに開催する研修講座のご案内をいたします。詳細については、当センターのHPをご覧ください。皆様の参加をお待ちしております。

タイトル	日時	実習・講座
◆【移動講座】 「自分と相手を守るインターネット利用」 ※会場 根羽村立根羽中学校	1月16日(金) 時間 14:10～15:55	講義 第1部:「スマホ・タブレット・ゲーム機・インターネット よく考えて利用を」 第2部:「メディア漬けを改善し、子どもらしく育てたい ～すてきな子どもが育ちます～」 講師 佐久市教育委員会 主幹指導主事 松島 恒志 氏 「ネット社会の落とし穴」 演習「自分を守る、相手も守るインターネット利用」
◆生涯学習推進講座「子どもの豊かな未来を育む読書活動」	1月22日(木) 時間 13:00～16:00	講義「東京子ども図書館の取組」 講師 東京子ども図書館 護得久 えみ子 氏 事例発表・情報交換
◆パソコン講座「チャレンジ! はじめてのパソコン」	① 1月26日(月)、27日(火) ② 1月29日(木)、30日(金) 時間 [1日目] 9:40～15:00 [2日目] 10:00～15:00 内容と時間(①・②共通)	[1日目] 実習 「パソコン操作の基礎」 「マウスの使い方・キーボードの操作」 「文書(Word)の作成」 [2日目] 実習 「文章(Word)の作成の復習」 「写真の加工」

※受講は無料です

※会場に記載がない講座は、当センターにおいて開催します。

※詳細は、開催日の1か月ほど前に出される開催要項でご確認ください。生涯学習推進センターのホームページは <http://www.nagano-c.ed.jp/shogai/> です。

### ◆お問い合わせ◆

長野県生涯学習推進センター  
〒399-0711  
長野県塩尻市片丘南唐沢 6342-4  
電話：0263-53-8822 FAX：0263-53-8825  
E-mail：shogaigakushu@pref.nagano.lg.jp

## ★県立長野図書館からのお知らせ★

### 1. 企画展示「2015年 — 節目を迎える出来事 — 」

いよいよ暮れも押し迫ってきた今日この頃。今年1年をふり返って、新たな年への希望や決意を考えている方も多いのではないのでしょうか。

来年の2015年は、第二次世界大戦終戦から70年、オウム真理教事件から20年など、様々な歴史的節目の年でもあります。そこで当館では、「2015年が〇周年」となるような出来事に関する本を集めたコーナーを作ります。

一年の計を立てるにあたり、過去から未来への流れの中で2015年がどんな位置にいるのかを少し考えてみるのもよいのではないのでしょうか。

- ◆実施期間 1月4日(日)～2月26日(木)
- ◆展示場所 2階 一般図書室
- ◆取り上げる予定のテーマ例
  - ・真田幸村 没後 400年
  - ・トーベヤンソン生誕 100年
  - ・ラジオ放送開始から 90年
  - ・第二次世界大戦終戦から 70年
  - ・Microsoft Windows 発売開始 30年
  - ・オウム真理教地下鉄サリン事件から 20年 など

□お問合せ：企画協力課 ([TEL:026-228-4939](tel:026-228-4939))

## 2. 休館日のお知らせ

12月～1月の休館日は、次のとおりです。

- ・月曜日 12月22日、1月5日、12日、19日、26日
- ・月末整理日 12月28日(土)
- ・その他 12月29日(日)～1月3日(土) 年末年始休館

※新年は1月4日(日)から開館します。

■年間の図書館カレンダーは、下記からご覧いただけますのでご利用ください。

→ <http://www.library.pref.nagano.jp/guidance/access#cft4>

### ◆お問い合わせ◆

県立長野図書館  
〒380-0928 長野県長野市若里 1-1-4  
TEL : 026-228-4500 FAX : 026-228-4933  
E-mail : [naganotoshokan@pref.nagano.lg.jp](mailto:naganotoshokan@pref.nagano.lg.jp)

[目次に  
戻る](#)

本メールマガジン「教育ながの」に関するアンケートを実施中です。

記名は必要ありません。以下 URL から御協力お願いいたします↓↓↓

<http://www.shinsei.elg-front.jp/nagano/navi/procInfo.do?govCode=20000&procCode=100523>

## あとかぎ

メールマガジン1月号をお送りします。

本文中にも書きましたが、メールマガジン「教育ながの」に関するアンケート調査を実施します。名前の記入等は必要ありません。

今後の編集の際の指標にしたいと思いますので、ぜひ御協力ください。

今年を象徴する言葉、漢字、人などが発表され、今年1年の総まとめの気配が漂ってきました。平成26年のメールマガジンも本号で最後になります。少し早いですが、皆様良いお年をお迎えください。

(か)